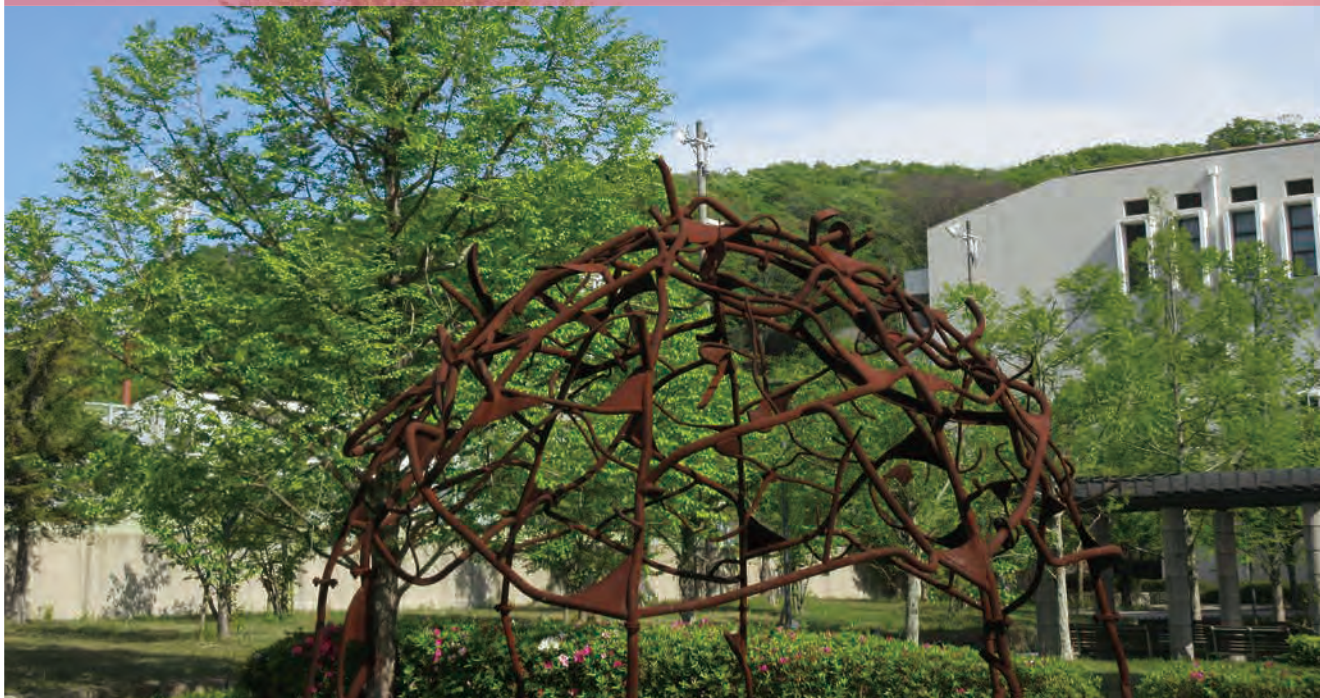


# 日本アジア言語文化専攻

Japanese and Asian Languages and Cultures



当専攻には、「日本語」「日本文化」「アジア言語文化」の3領域があります。

「日本語」では、近現代の日本語を中心的な対象として、日本語研究を行います。また、日本語と外国語との関わりも重視しています。

「日本文化」では、日本の伝統文化や近現代文化・社会を対象とした研究を行います。

「アジア言語文化」では、中央ユーラシアから東南アジア大陸部までの言語、文献及びそれらの文化的背景について研究します。

The Japanese and Asian Languages and Cultures Program consists of Japanese Language, Japanese Culture, and Asian Languages and Culture units.

In the Japanese Language unit, students conduct research on the Japanese language focusing mainly on modern and contemporary Japanese. The relationships between Japanese and foreign languages are also emphasized.

In the Japanese Culture unit, students conduct research on traditional Japanese culture, and culture and society of modern and contemporary Japan.

In the Asian Languages and Culture unit, students engage in research on the languages, literatures and cultures that span from Central Eurasia to the southeastern Asian continent.



## 研究指導担当教員 Faculty

### 日本語 Japanese Language

福田 嘉一郎 (ふくだ よしちろう) Yoshiichiro FUKUDA  
●教授/Professor

日本語の文法の研究を行っている。特に近代語という観点に基づき、中世から現代に至る日本語を主な研究の対象としている。

Studies in Japanese grammar (syntax, morphology)

岩男 考哲 (いわお たかのり) Takanori IWAO  
●准教授/Associate Professor

現代日本語の文法を主に研究している。特に、話し言葉に見られる形式の意味、そしてその意味の多様性(とその多様な意味の間のつながり)に関心がある。最近では、会話において話題を導入する形式や引用表現を主な研究対象としている。

Studies in modern Japanese grammar (syntax, semantics)

## 日本文化 Japanese Culture

馬渕 美帆(まぶち みほ)Miho MABUCHI  
●教授/Professor

日本絵画史、特に中世から近世のそれを主な対象として研究している。  
History of Japanese Paintings (medieval and early modern times)

山本 昭宏(やまもと あきひろ)Akihiro YAMAMOTO  
●准教授/Associate Professor

メディア文化史、歴史社会学研究。核エネルギーに関する日本人の認識を、新聞・雑誌・漫画・映画・小説などの様々なメディアに注目して研究している。それに基づいて、日本の現代文化との比較研究も行っている。  
History of media culture. Historical Sociology

## アジア言語文化 Asian Languages and Cultures

林 範彦(はやし のりひこ)Norihiko HAYASHI  
●教授/Professor

言語学専攻。専門領域は東アジア・東南アジア大陸部の諸言語である。中国雲南省で話されるチベット・ビルマ系言語であるチノ語の記述言語学的研究を中心に、東南アジア大陸部北部地域(タイ文化圏)の諸言語の地域言語学的研究を行っている。フィールドワークを手法とする記述言語学・言語類型論・歴史言語学(比較言語学・言語接触論)からこれらの諸言語にアプローチしている。また記述言語学と言語理論(生成文法・認知言語学等)の有機的な連携にも強い関心がある。  
Tibeto-Burman Linguistics and Southeast Asian Languages

## 最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・中国語と日本語の使役文翻訳に関する対照研究 -「使」と「讓」を焦点に
- ・語用論の観点から見たモダリティ形式「ようだ、らしい」について
- ・漢越語と日本語漢字音との対応 -ベトナム人学習者のための日本語漢字音テキストへ-
- ・関西在住留学生の方言-方言意識と習得意欲、関西人にとつての印象-
- ・アクセント辞典における「2単位に切れる」複合名詞アクセントの扱い-『NHK2016』と『新明解 2014』の対比-
- ・四字熟語アクセントにおける融合・非融合-格関係を中心に-
- ・日本語の使役表現と中国語の翻訳との対応関係について -「(さ)せる」と「叫」「讓」「使」を中心に-
- ・中国人学習者による日本語条件表現の習得に関する研究-モダリティとの関係において-
- ・日本アニメにおける女性語にはどんな変化が起きているか
- ・中国人日本語学習者の濁音習得の問題点について-音声教育の効果を中心に-
- ・日中共感覚比喩的表現についての対照研究-視覚形容詞をめぐって
- ・中国人日本語学習者による若者語の使用についての考察 -知識度・使用率、ほかし表現、接触経路・言語意識を中心に-
- ・「なければならぬ」「なきゃ」「ないと」の機能について考察
- ・中国語母語話者による日本語敬語の習得について
- ・複合動詞「～かける」と「～かかる」に関する研究
- ・「言い換え」における「とどうか」と「というより」
- ・日本語形容詞の程度性に関する一考察-中国語との対照を通して-
- ・日本とモンゴルのことわざから見る伝統的親子関係の比較研究
- ・宮崎駿作品におけるポストフェミニズム表現
- ・村上春樹と河合隼雄の「物語」とその意味 -『海辺のカフカ』を中心に-
- ・漢語泗水方言への音韻に関する記述的考察
- ・漢語漢沽方言の音韻に関する一考察
- ・現代中国語における日本語からの外来語-新語、ネット用語を中心に

## 院生紹介 Message from a Student



フィン・タン・ロン  
HUYNH Thanh Long  
(2020年度修生)

-なぜ修士課程に進学しようと思いましたか。

将来、日本語教育に携わりたいため、大学で学んだ知識だけでは足りないと考えた上で、かつもともと大学の専攻は心理学なので、日本語教育に勤めるための更なる日本語に関する知識が必要だと思ったからです。また日本語ができるといっても日本語を教えることができるとは限らないので、修士課程で勉強していく知識が非常に大事だと考えたからです。

-なぜ神戸市外国語大学の大学院を選んだのですか。

神戸市外国語大学は外国語を専門にしている有名な学校であり、留学生への支援などが十分だと聞いていました。また、公立学校のため、学費免除や奨学金などの様々な制度が揃っているため、もし

入学することができたらアルバイトなどの時間を軽減することができ、学業に集中することができると思いました。

-大学院と大学との相違点は何だと思いますか。

大学院は大学の勉強と違って、先生から知識を教わるのではなく、自ら自分の研究を進め、成果を求めていく必要があります。そこで、様々な論文や高度な専門教材を読まなければならない、これまでよりたくさん時間を勉強や研究に使う必要があります。一方、大学では「これは基礎知識、当たり前だ」ということを勉強しているのに対して、大学院では「なぜこれは基礎知識になっているのか?それは当たり前で本当にいいのか?」などの疑問を常に抱くことを心の中に刻まなければなりません。それらの疑問は研究への道をみちびいてくれるのです。